

(再評価)

資料2-2-②

平成29年度第2回
関東地方整備局
事業評価監視委員会

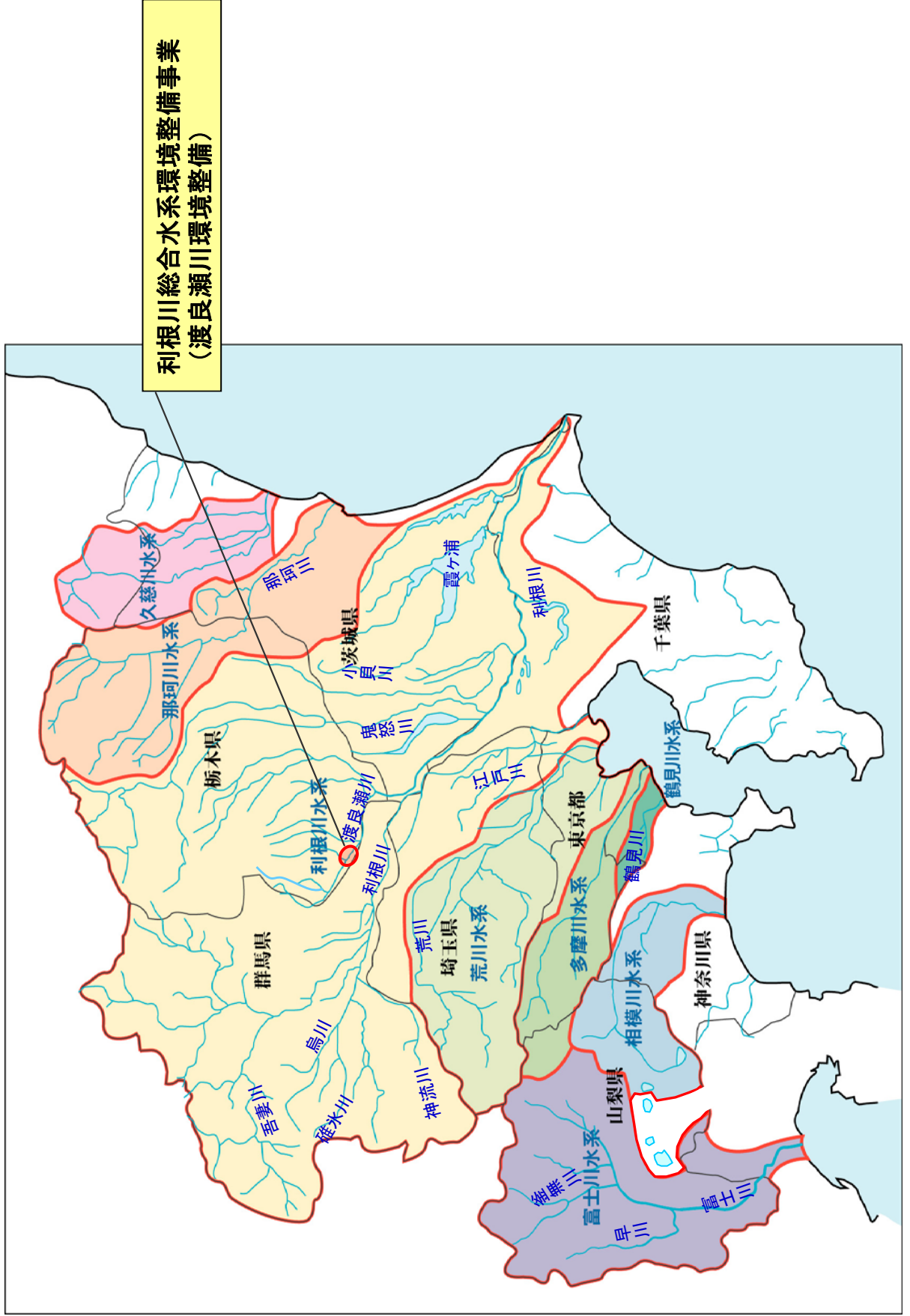
利根川 総合水系環境整備事業 (渡良瀬川環境整備)

平成29年10月20日
国土交通省 関東地方整備局

＜再評価＞

事業名 (箇所名)	利根川総合水系環境整備事業(渡良瀬川)		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課 五十嵐 崇博	事業 主体	関東地方整備局																																				
実施箇所	栃木県足利市、桐生市、群馬県館林市、邑楽町																																									
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業																																									
事業諸元	水環境:浄化導水、河川浄化施設の整備 水辺整備:水辺空間の整備																																									
事業期間	昭和56年度～平成35年度																																									
総事業費 (億円)	108		残事業費(億円)	1.4																																						
目的・必要性	<p>＜解決すべき課題・背景＞</p> <p>・渡良瀬川の水は、流域住民の農業用水等の貴重な水源となっており、また市街地における貴重な水辺空間となっている。広い河川敷はスポーツ広場等の利用の他、散策等の憩いの場所として親しまれており、誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる整備の必要性が高まっている。</p> <p>＜達成すべき目標＞</p> <p>本事業を推進することにより、渡良瀬川を持つ水と緑豊かな河川環境への親しみがさらに生まれ、河川空間がより身近なものとなることで、地元自治体や住民からの期待は高まると考えられる。各事業の目標は以下の通り。 (水環境)水質汚濁が進んでいた袋川や矢場川、渡良瀬川の支川である蓮台寺川の水環境を改善する。 (水辺整備)活動目的に合わせて誰もが安全かつ容易に利用できるよう、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間を整備する。</p> <p>＜政策体系上の位置付け＞</p> <p>・政策目標:良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 ・施策目標:良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する</p>																																									
便益の主な根拠	<p>・CVMアンケート調査により得られた支払意志額(WTP)および受益範囲の世帯数 【水環境事業】・蓮台寺川・袋川・矢場川:403円/世帯/月、243.187世帯 【水辺整備事業】・矢場川:321円/世帯/月、17,772世帯 ・桐生川:298円/世帯/月、14,132世帯 ・渡良瀬川:285円/世帯/月、52,721世帯</p>																																									
事業全体の投資効率性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準年度</th> <th colspan="8">平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B:総便益(億円)</td> <td>369</td> <td colspan="2">C:総費用(億円)</td> <td>218</td> <td>B/C</td> <td>1.7</td> <td>B-C</td> <td>151</td> <td>EIRR (%)</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>残事業の投資効率(億円)</td> <td>3.0</td> <td colspan="2">C:総費用(億円)</td> <td>1.3</td> <td>B/C</td> <td>2.2</td> <td colspan="4"></td> </tr> </tbody> </table>										基準年度		平成26年度								B:総便益(億円)	369	C:総費用(億円)		218	B/C	1.7	B-C	151	EIRR (%)	17	残事業の投資効率(億円)	3.0	C:総費用(億円)		1.3	B/C	2.2				
基準年度		平成26年度																																								
B:総便益(億円)	369	C:総費用(億円)		218	B/C	1.7	B-C	151	EIRR (%)	17																																
残事業の投資効率(億円)	3.0	C:総費用(億円)		1.3	B/C	2.2																																				
感度分析	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">残事業(B/C)</th> <th colspan="2">全体事業(B/C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残事業費(+10%~-10%)</td> <td>2.1</td> <td>~ 2.5</td> <td>1.7</td> <td>~ 1.7</td> </tr> <tr> <td>残工期(+10%~-10%)</td> <td>2.2</td> <td>~ 2.2</td> <td>1.7</td> <td>~ 1.7</td> </tr> <tr> <td>資産(-10%~+10%)</td> <td>2.0</td> <td>~ 2.4</td> <td>1.5</td> <td>~ 1.9</td> </tr> </tbody> </table>											残事業(B/C)		全体事業(B/C)		残事業費(+10%~-10%)	2.1	~ 2.5	1.7	~ 1.7	残工期(+10%~-10%)	2.2	~ 2.2	1.7	~ 1.7	資産(-10%~+10%)	2.0	~ 2.4	1.5	~ 1.9												
	残事業(B/C)		全体事業(B/C)																																							
残事業費(+10%~-10%)	2.1	~ 2.5	1.7	~ 1.7																																						
残工期(+10%~-10%)	2.2	~ 2.2	1.7	~ 1.7																																						
資産(-10%~+10%)	2.0	~ 2.4	1.5	~ 1.9																																						
事業の効果等	(水環境)水質汚濁が進んでいた蓮台寺川、袋川、矢場川において、水環境が改善された。 (水辺整備)活動目的に合わせて誰もが安全かつ容易に利用できるよう、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の創出が期待できる。																																									
社会経済情勢等の変化	<p>・渡良瀬川の水は、流域住民の農業用水等の貴重な水源となっており、渡良瀬川や渡良瀬川に流入する支川の水質改善の必要性は高まっていた。そのような背景の下、水質改善事業の推進により、渡良瀬川や支川の水質改善が進み、流域住民が安心して渡良瀬川の水を使用できるようになり、事業投資効果が発揮された。</p> <p>・渡良瀬川は、市街地における貴重な水辺空間となっている。広い河川敷はスポーツ広場等の利用の他、散策等の憩いの場所として親しまれており、誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる整備の必要性が高まっている。</p>																																									
事業の進捗状況	<p>(水環境) H16年度に事業完了し、蓮台寺川、袋川、矢場川の浄化施設の整備等により水環境の改善を図った。</p> <p>(水辺整備) 矢場川:H20年度に基盤整備、管理用通路の事業が完了し、地域における水辺の交流拠点の整備、ネットワークの形成を図った。 桐生川:H21年度に緩傾斜坂路、階段、管理用通路・堤防天端舗装の事業が完了し、子どもたちの河川利用の促進、体験活動場として活用されている。 渡良瀬川:地域における水辺の交流拠点、ネットワークの形成として、緩傾斜堤防、管理用通路、緩傾斜坂路等を整備している。</p>																																									
事業の進捗の見込み	今後の実施の目処、進捗の見通しについて特に大きな支障はない。今後も事業実施にあたっては、社会情勢等の変化に留意しつつ、関係機関や地元関係者等との調整を十分に行い実施する。																																									
コスト縮減や代替案立案等の可能性	現場発生土(掘削土)を築堤材料として再利用によるコスト縮減を行った。 技術開発の進展に伴う新工法の採用等の可能性を探るなど一層のコスト縮減に努める。 維持管理にあたっては地元自治体や市民との協働によりコスト縮減に努める。																																									
対応方針	継続																																									
対応方針理由	渡良瀬川は、市街地における貴重な水辺空間となっている。広い河川敷はスポーツ広場等の利用の他、散策等の憩いの場所として親しまれており、誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる整備の必要性が高まっている。																																									
その他	<p>＜第三者委員会の意見・反映内容＞・・・特になし ＜都道府県の意見・反映内容＞・・・本県南部の県境を流れる渡良瀬川は、足利市をはじめ沿河市街地にとって貴重な水辺空間である。これまで、本事業により渡良瀬川の支川で、河川水質浄化施設等が整備され、水環境の改善が図られたところである。今後はさらに、地元住民等と連携し、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の整備が求められていることから、本事業の継続を要望する。今後も更なるコスト縮減を図るとともに、本県の事業区間について早期に整備を進めていただきたい。</p>																																									

事業位置図

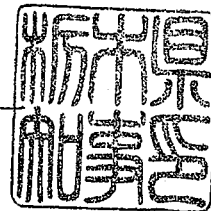


河第 235 号

平成 29 年 10 月 5 日

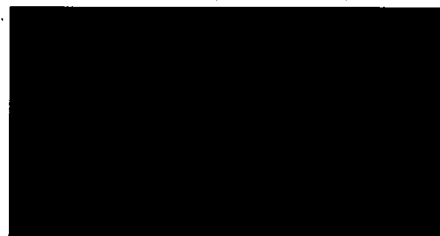
国土交通省 関東地方整備局長 様

栃木県知事 福田 富



関東地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成に係る
意見照会について (回答)

平成 29 年 9 月 29 日付け国関整企画第 112 号で照会がありましたことについて、
別紙のとおり、回答いたします。



【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」 案※	栃木県知事の意見
利根川総合水系環境整備事業(渡良瀬川環境整備)	継続	<p>本県南部の県境を流れる渡良瀬川は、足利市をはじめ沿川市街地にとって貴重な水辺空間となっていることから、今後とも地元住民等と連携し、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の整備のため、本事業の継続を要望します。</p> <p>併せて、更なるコスト縮減を図るとともに、本県の事業区間について早期に整備を進めていただくようお願いします。</p>

※貴職の意見を踏まえ、関東地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。